

2025 年度
筑波学園看護専門学校
学校評価(自己評価)

公開日:2026 年 7月 10 日

一般財団法人 筑波麓仁会
筑波学園看護専門学校

1 本校の教育理念・目的・目標

教育理念

一般財団法人筑波麓仁会の基本理念である真心で医療と福祉に貢献できる、看護実践者の育成を目指す。

教育目的

人間尊重を基盤とした豊かな人間性を養い、保健、医療、福祉に貢献できる看護実践者を育成することを目的とする。

教育目標

1. 人間を、生活者として幅広く理解する能力を養う。
2. 生命を尊び、人としての権利を尊重して、倫理に基づく看護を実践できる能力を養う。
3. 科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断を行うために基礎的能力を養う。
4. 健康レベルに応じた看護を実践できる基礎的能力を養う。
5. 保健・医療・福祉システムにおける自らの役割及び他職種の役割を理解し、多職種と連携協働しながら多様な場で生活する人々への看護を提供する基礎的能力を養う。
6. 専門職業人として、自主的、主体的に学び続け、看護の質の向上を図る能力を養う。

2 学校評価の実施方法

本評価は、本校の学校評価規定に基づき、2025 年度の教育活動および学校運営について自己評価を行ったものである。評価にあたっては、2025 年度事業報告、学生アンケート、教員アンケート、看護師国家試験結果、在籍状況、学生募集状況等の定量的・定性的資料を総合的に活用し、学校評価規定に定める 6 項目に沿って整理した。

根拠データの詳細は、「2025 年度学校評価 根拠データ集」として校内で整理・保管している。

評価に用いた主な資料

資料	対象・件数	主な活用内容
学生アンケート	回答数:1 年生 17 名、2 年生 18 名、3 年生 16 名 合計 51 名) 回答率:52% ※Web フォームによる任意回答	教育理念の理解、授業・実習、学修成果、学生支援、進路支援等の把握
教員アンケート	回答者:8 名 回答率:89% ※Web フォームによる任意回答	教育理念の共有、教育課程の運用、学生支援、教員体制、教育環境、学校運営改善等の把握
看護師国家試験結果	受験者 24 名、合格者 24 名	教育成果の客観的確認
在籍状況	2025 年度在籍状況、休学・退学状況	在籍維持、学生支援の成果確認
学生募集状況	2026 年度入学生 38 名／入学定員 40 名	学生受け入れ、募集活動の成果確認

評価区分

評価	判断の目安
3	概ね達成しており、良好に実施されている
2	一定程度達成しているが、改善を要する点がある
1	課題が大きく、重点的な改善が必要である

3 評価項目別の自己評価

1) 教育理念・目的・目標 【評価:3】

本校の教育理念・教育目標については、教員アンケートにおいて「理解している」「日々の教育活動に反映している」とする肯定的回答がいずれも 100%であり、教員間で理念の共有は十分に図られていると評価できる。

学生アンケートにおいても、「本校がどのような看護師を育てようとしているか理解できている」は全体 83.0%、「授業や実習は教育目標に沿っていると感じる」は 86.8%であり、学生にも教育の方向性は概ね伝わっている。特に 3 年生では両項目とも高い肯定的評価が得られており、学年進行に伴って理念理解が深まっていることがうかがえる。

一方で、2 年生では肯定的割合が相対的に低く、教育理念と日々の学習・実習との結びつきを実感しにくい時期があることが示唆された。今後は、学年段階に応じて教育理念と具体的学習経験を結び付けて説明する機会を意識的に設ける必要がある。

2) 教育課程、教育の実施および学習成果 【評価:3】

教育課程および教育の実施については、教員アンケートで「教育課程全体の中での位置づけを意識して実施している」「到達目標を意識して教育を行っている」がいずれも 100%であり、教育課程を踏まえた授業・実習運営が行われていると評価できる。

学生アンケートでも、「授業内容は学年やこれまでの学びとつながっている」90.6%、「授業の進め方は理解しやすい」88.7%、「実習指導は学習目標が分かる形で行われている」84.9%と、全体として高い肯定的評価が得られた。

また、2025 年度は、長期ルーブリックの策定や基礎看護学実習におけるパフォーマンス評価導入準備を進め、記録中心から学生の理解や実践力を重視した評価への改善に取り組んだ。さらに、2025 年度卒業生の看護師国家試験合格率は 100%であり、教育成果は客観的にも確認できる。学生アンケートにおいても、「必要な知識・技術・考え方が身についてきている」88.7%、「自分の成長を感じている」81.1%であり、学生自身も一定の学修成果を実感している。

一方で、「評価の考え方は説明されている」は学生全体で 79.2%、教員側の「学生に分かりやすく説明している」も 75%にとどまった。さらに学生自由記述では、特に 2 年生から、実習指導や評価の考え方について教員間の違いに戸惑う声が複数みられた。

したがって、教育課程そのものは概ね適切に運用され、成果も確認できる一方で、実習指導や評価の考え方を学生に一貫して伝えること、および教員間で評価観をさらに共有することが課題である。

3) 学生の受け入れおよび学生支援 【評価:2】

学生募集については、2026 年度入学生として 38 名を確保し、入学定員 40 名に対して充足率 95%となった。少子化や看護専門学校の定員割れが進む状況下で、一定の成果が得られていると評価できる。一方で、定員 100%には達しておらず、安定的な学生確保に向けた募集戦略の継続的な見直しは必要である。

また、近隣看護学校の閉校に伴い、編入学生 3 名を受け入れ、学修継続を支援したことは、学生の受け入れと地域的役割の両面から意義があった。

学生支援については、2025 年度の年度途中休学者は 0 名、退学者は 2 名で、いずれも前年度からの休学後退学であった。休学者および退学者が前年度より減少したことから、学生支援の取組が在籍維持に一定程度つながっていると評価できる。

教員アンケートでは、「学生の課題に気づき支援につなげている」87.5%、「相談しやすい関係づくりを意識している」87.5%であった。一方、「組織として支援できている」は75%であり、個々の教員の関わりは機能しているものの、組織的支援体制には改善の余地がある。

学生アンケートでも、「相談できる体制がある」「相談しやすい教職員がいる」はいずれも全体73.6%で、特に2年生で低い値を示した。進路相談についても、2年生の肯定的割合は52.6%と低く、学年段階に応じた支援の見直しが必要である。

総じて、学生支援は在籍維持の改善という成果を示している一方で、相談体制の実感や支援へのアクセスしやすさには学年差があり、とくに2年生への支援が課題である。

4) 教育実施組織および教員【評価:2】

教員アンケートでは、「教職員としての役割分担や責任体制は明確である」が87.5%であり、基本的な役割認識は共有されている。また、自由記述では、「会議共有ができて」「意見交換ができる」といった肯定的意見もみられ、教員間の情報共有や対話の基盤は一定程度形成されている。

一方で、「教職員間の連携は適切に取れている」は75%、「自身の教育力向上のため、研修や自己研鑽に取り組んでいる」も75%であり、他項目に比べると肯定的割合は低めであった。自由記述では、講義・実習・担任業務・委員会業務等の重なり、役割の見える化、実習先との連携、業務整理に関する意見が挙げられている。

これらを踏まえると、教育実施組織は概ね機能しているものの、連携の質、業務配分の見える化、教員が教育改善に向けた時間を確保しやすい体制づくりについては今後の検討課題である。なお、業務負担の受け止め方や業務遂行のスタイルには個人差もあるため、単純に人員不足の問題として捉えるのではなく、業務の整理・効率化と教育の質の両立という観点から検討することが適切である。

5) 教育環境【評価:3】

2025年度は、電子教科書の導入、クラウド型情報共有システムの導入、学生への配布資料や申請書類のデジタル化、各教室の視聴覚設備更新を実施し、教育環境および校務環境の改善を進めた。

学生アンケートでは、「学習環境は学修に支障がない」が86.8%、教員アンケートでは「施設・設備・教材等は概ね整っている」が87.5%、「学生の安全に配慮した教育・実習が行われている」が100%であり、教育環境は全体として良好に整備されていると評価できる。

一方で、教員自由記述には、成績評価データの保存方法への不安や、カルテ閲覧用パソコン台数に関する要望が示されている。教育環境の整備は着実に進んでいるが、今後はデータ管理の安全性や実習・教育活動を支える機器配置についても検討を継続する必要がある。

6) 教育活動の基盤および改善・向上に向けた取組【評価:2】

2025年度は、教育評価の見直しに向けて長期ループリックを策定し、基礎看護学実習におけるパフォーマンス評価の導入準備を進めた。これらは、教育理念の実現に向けて、学生の成長過程と実践力を重視する教育へ転換するための基盤整備として評価できる。

また、学校評価規定では、自己評価を実施し、アンケートや教職員の意見交換、定量的・定性的データを総合して活用することが定められている。今回実施した学生アンケート・教員アンケートは、2025年度学校評価の根拠資料であるとともに、次年度以降の学校評価制度の継続的運用に向けた基礎資料としても位置づけられる。

教員アンケートでは、「学校の運営方針や方針決定の過程は共有されている」87.5%、「意見や提案を出しやすい職場環境である」87.5%であり、改善に向けた対話の基盤は一定程度形成されている。一方、「学校評価

の取組は教育活動や学校運営の改善につながっている」と感じる割合は 75%にとどまっており、学校評価を実際の改善サイクルにつなげる運用は今後の課題である。

今後は、学校評価制度を単なる報告にとどめず、教育活動の見直し、学生支援、業務改善へと確実に反映させることが求められる。

4 総合評価

2025 年度は、教育理念の共有、教育課程の運用、学生支援、教育環境整備の各面で、一定の成果が確認できた。

特に、看護師国家試験合格率 100%、休学・退学の減少、入学定員 95%の確保、長期ルーブリックの策定およびパフォーマンス評価導入準備などは、本校の教育改善と持続的運営に向けた重要な成果である。

学生アンケートでは、「本校での学びは看護師になるために意味がある」とする肯定的回答が 94.3%であり、教育全体に対する学生の受け止めは高い水準にある。また、教員アンケートでは、理念理解・学修成果・社会的役割に関する項目がいずれも 100%であり、教員側も本校の教育に一定の手応えを感じている。

一方で、今後の重点課題として、次の事項が挙げられる。

- ・2 年生における教育理念理解、実習指導・評価の受け止め、相談体制の実感の低さ
- ・学生に対する評価説明の分かりやすさ
- ・実習指導や支援における一貫性
- ・教員間連携、業務の見える化、学校評価結果の改善への接続
- ・学生募集における定員充足率 100%の達成

総じて、本校の教育活動は看護師養成校としての役割を適切に果たしており、教育成果も安定していると評価できる。2026 年度以降は、2025 年度に整備した評価・支援・教育改善の基盤を実際の教育活動に着実に定着させ、学生が学び続けられる環境の充実と、より持続可能な学校運営につなげていく必要がある。

5 今後の改善の方向性

1. 実習指導および評価の考え方について、教員間での共有を継続し、学生に一貫して伝わる指導体制の充実を図る。
2. 学修支援・相談支援・進路支援の実感を高めるための関わりを検討する。
3. 学校評価結果を次年度の教育計画および業務改善に反映し、改善サイクルの定着を図る。
4. 校務支援システムの導入等により、データ管理の安全性向上と業務効率化を進める。
5. 学生募集戦略を継続的に見直し、定員充足率 100%を目指す。

※本資料は 2025 年度学校評価の公表用として作成したものであり、個別の自由記述や詳細な根拠データは校内資料として管理する。